

STAGE+を楽しむ(83)(HP 収載)

—ミッシャ・マイスキー—

1. 始めに

前報(82)に引き続き、STAGE+のミッシャ・マイスキーによるハイドンのヴァイオリン協奏曲のチェロでの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ミッシャ・マイスキーによるハイドンのヴァイオリン協奏曲のチェロでの演奏を選びました。

チェロの天才が奏でるハイドンのヴァイオリン協奏曲

ウィーン交響楽団

収録日: 1987年4月13日

2024年1月1日までの期間限定

世界的なチェロ奏者であるミッシャ・マイスキー。本映像では彼の卓越した技術、深い音楽性をお楽しみいただけるのはもちろん、指揮者としての存在感もご覧いただけるものとなっています。演奏曲はなんとヴァイオリン協奏曲。チェロのために書かれたものではない作品であるため、演奏の難易度はさらに増しています。しかしそこは世界を代表する奏者であるマイスキー。あらゆる楽想を難なく弾きこなし、チェロという楽器の可能性と魅力を存分に楽しませてくれます。

ソリスト:

ミッシャ・マイスキー (チェロ)

演奏:

ウィーン交響楽団

曲目:

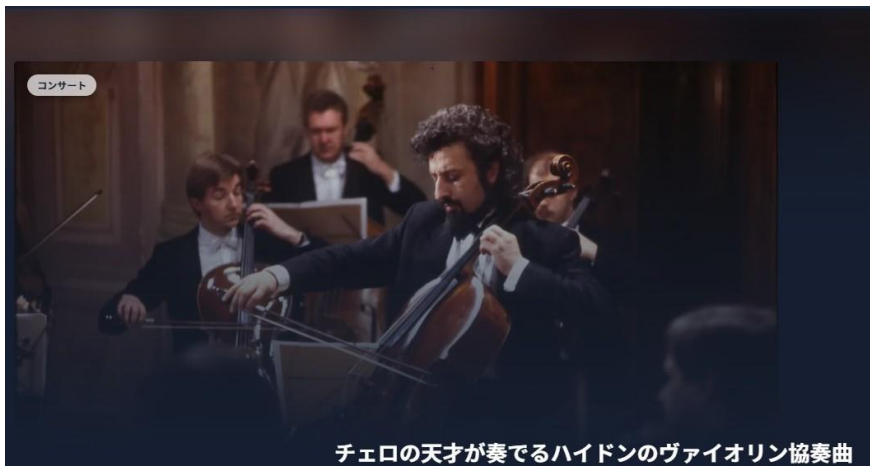
ヨーゼフ・ハイドン

ヴァイオリン協奏曲ト長調 Hob. VIIa:4 (チェロとオーケストラ版)

ヨーゼフ・ハイドン

ヴァイオリン協奏曲ハ長調 Hob. VIIa:1 より第2楽章 : Adagio

(チェロとオーケストラ版)



3. 試聴の経過

ヴァイオリン協奏曲をチェロで演奏するという試みで、マイルスキーの弾き振りで
す。宮殿の一室のような収録環境で無観客の演奏です。

マイルスキーのチェロもウィーン交響楽団による弦楽アンサンブルも柔らかで滑らかな音です。

ヴァイオリン協奏曲をチェロで演奏するというので、どうなるかと思いつつ聴き始めましたが、マイルスキーの技巧で難なく弾き切っており、高音もきれいに伸びています。





4. まとめ

ヴァイオリン協奏曲をチェロで演奏する試みでしたが、マイルスキーのチェロもウィーン交響楽団による弦楽アンサンブルも柔らかかで滑らかな音で優雅な演奏です。

以上